

# 農泊の分野で 地域おこし協力隊制度を活用して 地域を盛り上げましょう！



令和6年4月

## 農林水産省

# はじめに

「地域おこし協力隊」は人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域の活性化につながる活動を行いつつ、その定住・定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とした制度です。

農林水産省で推進している、農山漁村に宿泊し、滞在中に地域資源を活用した食事や体験等を楽しむ「農山漁村滞在型旅行」農泊の分野でも、既に多くの地方公共団体において、農泊地域協議会の活動の担い手、地域資源を活かした観光コンテンツのキーパーソンとして、地域おこし協力隊員が活躍しています。

本パンフレットでは、農泊の分野での地域おこし協力隊制度の活用がさらに進むよう、協力隊制度の概要や農泊分野での活用事例を掲載しました。

皆さんの地域でも、地域を盛り上げるために、農泊分野で地域おこし協力隊制度を御活用願います。

## ～ 農泊分野での地域おこし協力隊の活用イメージ～

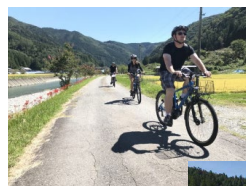
### 農泊地域協議会の中心として・・・

- ・ 農林水産省では、地域において農泊の取組を進めるにあたって、地域全体のマーケティングやマネジメント等の地域内調整を行う中核法人が中心となり、多様な関係者が「地域協議会」に参画し、地域一丸となって継続的に取り組んでいただく体制が構築されることが大事だと考えています。
- ・ 地域の関係者を支え、けん引する半ば公的な役割を果たす「地域協議会」「中核法人」の業務の担い手として、地域の「外」の目線も提供できる地域おこし協力隊員の活躍が期待されます。



### 観光コンテンツ提供の担い手として・・・

- ・ 農山漁村地域では、関係者の高齢化等に起因する宿泊・食事・体験といった観光コンテンツの提供者の不足が深刻になっています。
- ・ 農泊の地域協議会と連携し、古民家などの地域資源を活用しつつ、農家民宿やレストラン経営をしたり、狩猟体験を観光客に提供したりしている地域おこし協力隊員や、協力隊経験者の方が多くおられます。



# 地域おこし協力隊とは？

都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を異動し、地方公共団体が「地域おこし協力隊員」として委嘱し、一定期間、地域に居住して、「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組です。

- ◆ 地域協力活動の例
  - ・ 地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR
  - ・ 農林水産業への従事
  - ・ 住民の生活支援 など

○実施主体 地方公共団体

○活動期間 概ね1年以上3年以下

○国の支援

概ね次に掲げる経費について、特別交付税による措置を講じています。

① 地域おこし協力隊員の活動に要する経費

隊員1人あたり520万円上限  
(報償費等320万円、その他の経費(活動旅費、作業道具等の消耗品費、関係者間の調整などに要する事務的な経費、定住に向けた研修等の経費など)200万円)

② 地域おこし協力隊員等の起業・事業承継に要する経費

任期2年目から任期終了後1年以内に起業する者又は事業を引き継ぐ者1人あたり100万円上限

③ 地域おこし協力隊員の募集等に要する経費

1団体あたり300万円上限

④ 「おためし地域おこし協力隊」に要する経費

1団体あたり100万円上限

⑤ 「地域おこし協力隊インターン」に要する経費

1団体あたり100万円上限(プログラム作成等に要する経費)  
1人・1日あたり1.2万円上限(活動に要する経費)

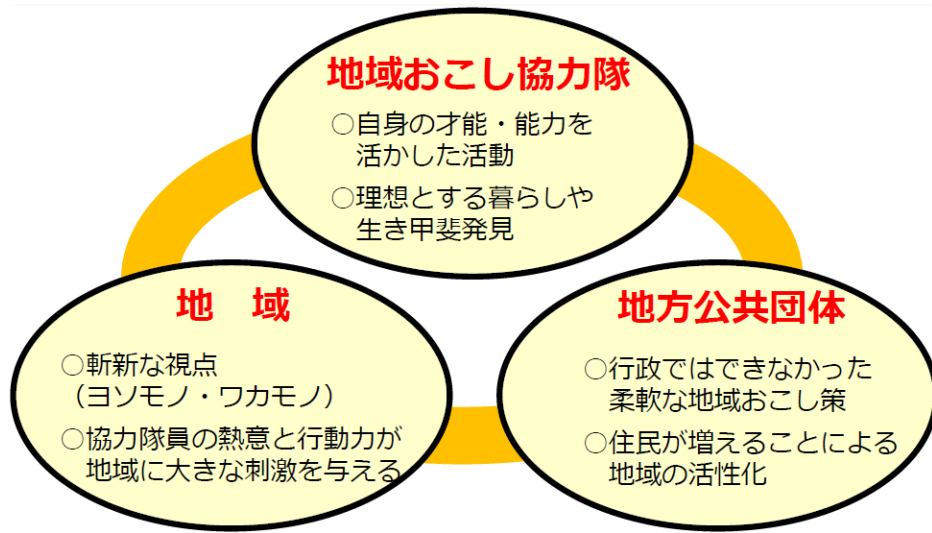
⑥ 地域おこし協力隊員の日々のサポートに要する経費

1団体あたり200万円上限(市町村に限る)

⑦ 任期終了後の隊員が定住するための空き家の改修に要する経費

措置率0.5

◆ **地域おこし協力隊導入の効果**  
 ～地域おこし協力隊・地域・地方公共団体の「三方よし」の取組～



◆ **隊員数、取組自治体数の推移**

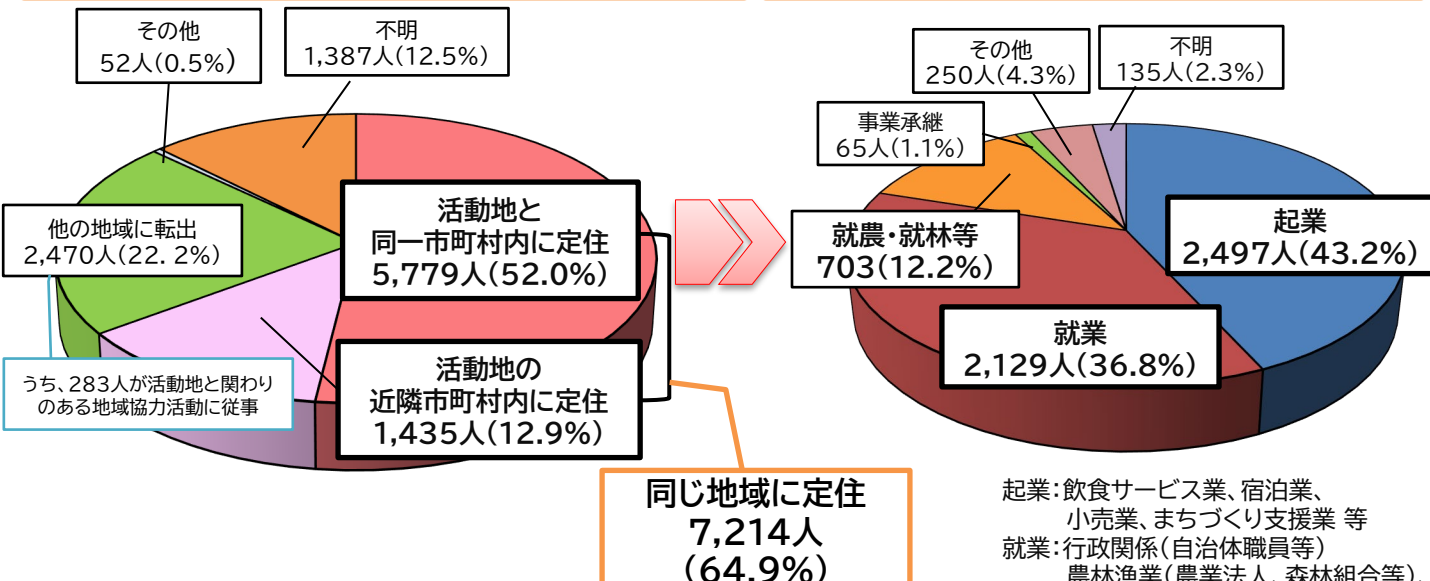
年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
隊員数 (人)	617	978	1,629	2,799	4,090	4,976	5,530	5,503	5,560	6,015	6,447	7,200
自治体数	207	318	444	673	886	997	1,061	1,071	1,065	1,085	1,116	1,164

※総務省の「地域おこし協力隊推進要綱」に基づく隊員数。  
 ※平成26年度から令和3年度の隊員数は、名称を統一した「田舎で働き隊(農林水産省)」の隊員数を含む。

◆ **任期終了後の隊員の動向**

任期終了後、およそ65%の隊員が同じ地域に定住

同一市町村内に定住した者(5,779人)の進路



※R5.3末までに任期を終えた隊員に関する調査  
 (総務省 令和5年度地域おこし協力隊の定住状況等調査に係る調査結果より)



農泊地域が抱える課題解決のために力を貸したい！

### 人材活用事業（研修生タイプ・専門家タイプ）

※農泊地域の求人に応募する必要があります。

農泊に取り組む地域が、地域の需要分析・戦略づくりのため、事業計画、プロジェクトマネジメント、観光コンテンツ開発、観光プロモーション、旅行商品開発、マーケティング、ICT化指導、といった専門的知識を有する専門人材を募集します。

【農山漁村振興交付金 農山漁村発イノベーション対策のうち農泊推進型の概要について】  
[https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/nouhakusuishin/attach/pdf/nouhaku\\_jigyo\\_gaiyo.pdf](https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/nouhakusuishin/attach/pdf/nouhaku_jigyo_gaiyo.pdf)



民間企業等のスキルを地域活性化に活かして欲しい！

### 地域活性化起業人

地方公共団体が、三大都市圏に所在する民間企業等の社員を一定期間受け入れ、そのノウハウや知見を活かし、地域独自の魅力や価値の向上等につながる業務に従事してもらうために必要な経費について、特別交付税による措置を講じています。

- ・「企業派遣型地域活性化起業人」  
三大都市圏に所在する派遣元企業から受入自治体に派遣される者
- ・「副業型地域活性化起業人」  
三大都市圏の企業等に勤務しながら受入自治体にて副業を行う者

【地域活性化起業人(総務省ホームページ)】  
[https://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/jichi\\_gyousei/c-gyousei/bunken\\_kaikaku/02gyosei08\\_03100070.html](https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/bunken_kaikaku/02gyosei08_03100070.html)



地域づくりの実践に向けた知識を習得したい！

### 農村プロデューサー養成講座について

地域への愛着と共感を持ち、地域住民の思いを汲み取りながら、地域の将来像やそこで暮らす人々の希望の実現に向けてサポートできる人材(農村プロデューサー)を養成しています。

【『農村プロデューサー』養成講座(農林水産省ホームページ)】  
<https://www.maff.go.jp/j/nousin/course/>



# 農泊地域における地域おこし協力隊の活動事例

令和6年3月現在

No.	局名	都道府県	市町村名	氏名	現職・経験者の別	農泊事業実施主体名	主な活動	ページ
1	関東農政局	長野県	小諸市	田澤 麻里香	隊員経験者	SAKU酒蔵アグリツーリズム推進協議会	観光地域づくりコンサルタント、酒蔵ホテル®構想確立	6
2	農村振興局	北海道	赤井川村	須藤 絵利香	隊員経験者	赤井川村農泊推進協議会	オンラインストア運営、体験ガイド	7
3	農村振興局	北海道	栗山町	入倉 英茂	現職	栗山町農泊推進協議会 (栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会)	地域保全活動、体験メニュー指導	7
4	農村振興局	北海道	広尾町	磯野 巧	現職	ピロロツーリズム推進協議会	体験型観光企画運営	8
5	農村振興局	北海道	浦幌町	小松 輝	隊員経験者	浦幌農泊観光促進協議会	ゲストハウス運営、就業促進サイト運営	8
6	東北農政局	宮城県	栗原市	狩野 夏穂	隊員経験者	栗原市農泊推進協議会	体験コンテンツ企画・開発、宿泊・飲食事業者の人材育成	9
7	東北農政局	秋田県	大館市	工藤 里美	現職	大館市まるごと体験推進協議会	農家民宿受け入れサポート、修学旅行誘致活動	9
8	東北農政局	秋田県	仙北市	東風平 蒔人	隊員経験者	一般社団法人仙北市農山村体験推進協議会	オンライン商談対応企画、宿泊・アクティビティ従事	10
9	東北農政局	秋田県	仙北市	佐藤 成真	現職	一般社団法人仙北市農山村体験推進協議会	多言語対応による事務サポート	10
10	東北農政局	福島県	塙町	土井 眞穂梨	現職	塙町観光協会 (はなわ農泊交流協議会)	「ダリア染め体験」制作・販売	11
11	関東農政局	茨城県	神栖市	竹中 郁人	現職	神栖農泊協議会	観光PR動画作成、宿泊・体験プランの作成・販売	11
12	関東農政局	千葉県	香取市	顔 冬子	現職	北総里山文化推進協議会	着物体験・茶道体験サポート、インバウンドを含めた情報発信	12
13	関東農政局	静岡県	松崎町	石川 たごさく	現職	松崎町・獣害×外住協議会	狩猟体験ツアーガイド、ジビエ肉の商品開発・販売	12
14	北陸農政局	新潟県	長岡市	中澤 泉	現職	山古志農泊推進協議会	地域伝統文化発信、観光資源発掘	13
15	北陸農政局	新潟県	十日町市	井比 晃	隊員経験者	水沢棚田協議会	体験コンテンツの作成やツアー企画、旅行会社の運営、古民家を活用したゲストハウスの運営	13
16	北陸農政局	富山県	氷見市	田中 紀行	現職	氷見市宿泊体験推進協議会	観光地域プランナー、情報媒体作成・マーケティング・PR活動	14
17	北陸農政局	福井県	若狭町	阪野 真人	隊員経験者	伝統漁港による三方湖の活性化推進協議会	環境保全型体験プログラム提供、伝統漁法現場見学体験ツアー	14
18	東海農政局	岐阜県	山県市	河合 祐樹	現職	山県市農泊推進協議会	ツアー造成アドバイザー	15
19	東海農政局	岐阜県	八百津町	武藤 貴子	隊員経験者	80%山のまちを元気にする協議会	森林空間の活用と観光資源の発掘	15
20	東海農政局	愛知県	西尾市	池部 彰	現職	西尾南部ベイエリア協議会	地域特産物栽培、漁船体験サポート	16
21	東海農政局	三重県	紀北町	井上 幸子	現職	紀北町海山地区渚泊推進協議会	渚泊、多言語を活かしたインバウンド対応	16
22	近畿農政局	京都府	和束町	鶴澤 由明	隊員経験者	和束町農泊推進協議会	茶業や観光等を通じた活動	17
23	近畿農政局	京都府	伊根町	増田 一樹	隊員経験者	伊根浦地区農泊推進地区協議会	体験コンテンツ造成運営	17
24	近畿農政局	奈良県	十津川村	西村 晃代	現職	十津川村インバウンド受入協議会	山暮らし体験、古民家の再生・活用	18
25	近畿農政局	和歌山県	串本町	博多 敏希	隊員経験者	串本町古民家活用協議会	古民家を活用した宿泊や農家レストラン展開	18
26	中国四国農政局	山口県	萩市	宮崎 隆秀	隊員経験者	萩市ふるさとツーリズム推進協議会	事務局運営、各種体験コンテンツ提供、ツアー造成	19
27	中国四国農政局	香川県	高松市	村山 淳	隊員経験者	特定非営利活動法人 しのおえ	伝統野菜栽培他、事業実施主体立ち上げ、産直野菜のブランド化	19
28	九州農政局	福岡県	八女市	田中 未来	隊員経験者	母の膳推進協議会	収穫料理体験等イベント企画、マルシェ等企画運営販売	20
29	九州農政局	福岡県	宗像市	本田 藍 魚住 ゆかり	隊員経験者	宗像鮫の会	海女業に関するデータ作成、Web料理体験、水族館を活用したPR活動	20
30	九州農政局	熊本県	上天草市	星野 真理	隊員経験者	維和島振興協議会	地域食材を活用した地域内外の方々の交流の場づくり	21
31	九州農政局	熊本県	あさぎり町	石川 智一	現職	球磨川ふるさと食・農協議会	農業を主体とした特定地域づくり事業協同組合の事務局、地域食材を活かした体験交流	22
32	九州農政局	熊本県	あさぎり町	森田 孝政	現職	球磨川ふるさと食・農協議会	農業を主体とした特定地域づくり事業協同組合の事務局、地域食材を活かした体験交流	22



# 世界初の酒蔵ホテル®で、世界一の日本酒ツーリズムを目指す取組

～観光地ではない故郷を、世界中の日本酒ファンが世界で最も感動する場所へ～

SAKU酒蔵アグリツーリズム推進協議会では、世界一の日本酒ツーリズムの実現を目指し、世界初で世界唯一の酒蔵ホテル®を核にした観光地域づくりを実践しています。

中核法人である(株)KURABITO STAYは、地域おこし協力隊OGが立ち上げました。かつて酒造り職人が寝泊まりしていた職人の宿舎をリノベーションし、国内外の日本酒ファンが、蔵人さんながらに寝泊まりしながら日本酒の仕込み体験ができる体験プログラムを提供しています。

令和5年からは、「自転車で酒米街道へ」をテーマにしたサイクリングプログラムも造成し、年間を通じた地域の魅力発信を行っています。



## 長野県小諸市 元地域おこし協力隊 田澤 麻里香さん

(活動期間:平成28年度～29年度)

専業主婦からの社会復帰、できるならば、それまでのツーリズム産業で働いたキャリアを活かせる場を求めていたところ、DMOの(一社)こもろ観光局立ち上げ準備室の業務を担当する地域おこし協力隊として、故郷に約10年ぶりに帰ってくることができました。

大手旅行会社で培った経験を活かし、DMOでは主に着地型旅行商品づくりを担当しました。もっと自由に、もっとダイナミックに活動したいという想いを抑えられず、地域おこし協力隊員の活動は1年間で卒業し、その後は個人事業主で「観光地域づくりコンサルタント」として独り立ちしました。

独立後、約1年半後に出場したビジネスコンテストをきっかけに、温めてきたアイデアである「酒蔵ホテル®」を実現するために株式会社を設立、起業しました(令和元年5月)。同年、面的に観光地域づくりを促進するための農泊協議会も立ち上げました。ホテル開業4年で、インバウンド40%達成、満足度100%、23か国からのゲストを受け入れました。



## 特産品や体験を通して、村の暮らしや営みを伝える ～また帰ってきたくなる村を目指して～

北海道赤井川村では、農泊の取組を通じ、宿泊型の体験プランや旬の食材の提供、村内のリゾートエリアと農村地域をマッチングさせ、国内外のお客さんとの交流、周辺地域との連携などを取り入れ、宿泊者や交流人口の増加に取り組んでいます。

赤井川村には優れた産品と、その産品を生み出す生産者がいますが、地域としてそれらを発信できていないことが課題でした。「むらに恋する人」を増やすという関係人口の構築を目的として、「むらのもの(特産品)」「むらのこと(日常の出来事)」の発信やふるさと納税のPRのために、地域おこし協力隊員を募集しました。



### 北海道赤井川村 元地域おこし協力隊 須藤 絵利香さん

(活動期間:平成29年度～令和元年度)

東京生活10年目を機に田舎暮らしを決意し、移住先を探していたところ、「ふるさと伝え隊員」として地域おこし協力隊員を募集していた赤井川村に出会いました。

隊員時代には、ふるさと納税の業務で各生産者を廻り、事業者の方と話をすることでお互いの理解を深めながら、村に「ない‘もの’と‘こと’」が見えてきました。

現在は赤井川村の農産物や加工品を全国に発送するオンラインストアの運営と、旬の畑での体験のアテンドなどを行っています。農泊との関わりは、隊員卒業後の令和2年度から2か年間、赤井川村農泊推進協議会が農泊事業に取り組んだ際に、農業体験の受け入れを行いました。

私にとって赤井川村が第2のふるさとであるように、訪れた人がまた帰ってきたくなるよう、これからも、村の暮らしや営みを伝えていきたいと思っています。



## ハサンバツ里山地区での保全活動と交流人口の拡大に取り組む

北海道栗山町では、人口減少や高齢化による地域活動の衰退、担い手不足等の課題を解決するため、都市圏の若者を主な対象とし、住民票を本町に異動させ、地域活性化のための様々な支援活動を行う隊員を町が任命しています。隊員は本町で1年間(最長で3年まで延長可能)生活をしながら、コミュニティ活動の支援や、地域資源の発掘・振興に関する活動、農業等の支援活動など12名(令和5年度)の隊員が活躍しています。

栗山町農泊推進対策協議会の構成員である「栗山町ハサンバツ里山計画実行委員会」は、離農跡地のハサンバツ里山地区(24ha)を自然体験活動の拠点として保全活用をしてきました。令和4年度から農泊の体験交流施設(里山の恵み交流館「納屋」)が正式にオープンしたことから、隊員を受け入れ里山保全等の活動を本格化しています。



### 北海道栗山町 地域おこし協力隊 入倉 英茂さん(活動期間:令和5年度～)

東京でエンターテインメント業を長く続け、その後に札幌市に住んでいました。栗山町を訪れた際に自然豊かな「ハサンバツ里山地区」の存在を知りこの地に魅力を感じていたところ、町で協力隊員の募集があったため応募し隊員となりました。

協力隊では、「ハサンバツ活動推進員」としてハサンバツ里山づくりへの企画・参加を通じて、人と自然が共生するまちづくりの推進と交流人口の拡大に取り組むことを目標に、ハサンバツ里山の保全活動や農泊の体験メニューの指導等を行っています。将来的には、これら保全活動がボランティアでは長続きしないため、自立できる仕組みを構築し、引き続きこの地で活動に従事したいです。







## 「広尾町」らしさを追求した体験型観光の確立へ

北海道広尾町は北海道十勝地方の最南端に位置し、第一次産業の漁業、農業、林業が主要産業になっています。豊かな自然に恵まれ、第一次産業の体験を通じたアクティビティの素材が豊富にあるものの、それらは観光資源として十分に磨ききれていない状況下にありました。

令和4年度より広尾町水産商工観光課所属での地域おこし協力隊を採用し、農泊事業に取り組んでいる「ピロロツーリズム推進協議会」の一員として体験型観光の企画運営に従事しています。これまでに放牧見学や昆布干し体験、草花鑑賞ツアー、野鳥観察会、夜間&早朝フォトツアー、スノーサイクリング、フットパス事業といった各種コンテンツづくりを実現させました。



### 北海道広尾町 地域おこし協力隊 磯野 巧さん(活動期間:令和4年度~)

神奈川県出身。研究職@独立行政法人&高等教育機関をバックグラウンドにもち、学術的な側面から農山村の地域創生業務に従事してきました。その過程で観光地デザインや地域人材育成をはじめとする「専門性を活かした伴走型支援業務」に強いやりがいを感じ、将来的にそれらを中核事業とするまちづくり会社を設立したいと考えるようになりました。

そのためには地域に入り込み、一プレイヤーとしての経験を積み重ねる必要があると判断し、現場力の強化と実務スキルを磨くべく地域おこし協力隊の道を選びました。一次産業を題材とする体験型観光の推進という職歴が活かせるようなミッションで、さらには同世代が集いチャレンジングなことに取り組むピロロツーリズム推進協議会をもつ広尾町に大きな魅力を感じました。

協力隊としては間もなく任期を迎えますが、引き続きピロロツーリズム推進協議会の一員として農泊事業の推進にも携わる予定です。



## ツアーの企画だけにとどまらず、ゲストハウスの開業や就業促進サイトの運営など、町を元気にする取組

北海道浦幌町には絶滅危惧種や天然記念物の鳥類が観察できるスポットや炭鉱跡地など、自然や歴史にまつわる観光資源が豊富にある他、町の花であるハマナスが栽培され、それを原料とした加工品の開発なども行われています。

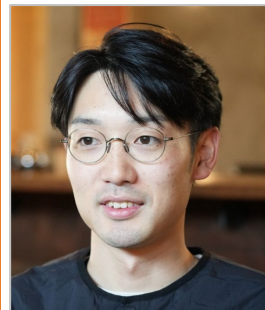
浦幌町では、平成30年に農泊の推進組織「浦幌農泊観光促進協議会」を立ち上げるにあたり、事務局を担う人材を地域おこし協力隊として募集しました。



### 北海道浦幌町 元地域おこし協力隊 小松 輝さん(活動期間:平成29年度~平成31年度)

大学では中山間の地域づくりについて学んでいました。浦幌町でのインターンシップを通して実際の地域づくりに触れたことをきっかけに、浦幌町での地域おこし協力隊に応募しました。協力隊の任期中は、浦幌農泊観光促進協議会で農泊事業の実務を担い、地域の自然や文化を活かしたツアーの企画などに際し、行政や地域の方との調整などを行いました。任期が終わるにあたり、旅行業の資格を取得していたため、協議会での仕事の経験や人脈を活かし、新たに会社を立ち上げました。

現在、旅行に係る業務は一部のツアーの受入以外は行っていませんが、ゲストハウスの運営の他、特産品などの販売やカフェなども併設したお店をオープンしました。この他、町からの委託で就業促進のポータルサイトも運営しています。これからも、浦幌町でいろいろな人が活躍し、地域が元気になるよう、活動をしていきたいと考えています。





## 100種類以上の体験プログラム開催 & 個別伴走型サポートでの民泊開業で滞在型の旅づくり！

宮城県栗原市では、地域資源を活用した滞在型の旅の創出を目的として、地域おこし協力隊を採用しています。「神々の絨毯」と呼ばれる紅葉風景が楽しめる栗駒山や、10万羽を超える渡り鳥が飛来する伊豆沼・内沼があります。

隊員は栗原市農泊推進協議会に所属し、多様な分野の参画団体と連携しながら、食やものづくり等の体験プログラムやツアーの創出、宿泊・飲食事業者の創業支援、食のコンテンツ開発、サイクルツーリズム、アドベンチャーツーリズムなどに取り組んでいます。



宮城県栗原市 元地域おこし協力隊 狩野 夏穂さん(活動期間:令和元年度～4年度)

岩手県での学生生活を経て、出身地の栗原市で、大学での研究テーマとして学んできた農泊推進に関わりたいと思い、地域おこし協力隊としてUターンしました。私のミッションは、体験コンテンツの企画・開発と、宿泊・飲食事業者の人材育成・支援でした。コロナ禍でも年間50回以上の体験プログラムを開催し、サイクリングやハイキング等の屋外でのプログラム開発に力を入れました。また、個別伴走型の創業支援のシステムを構築し、任期中に5軒の民泊施設が開業しました！

隊員としての任期を終えたのち、栗原市農泊推進協議会の中核法人(一社)くりはらツーリズムネットワークへ就職し、引き続き事務局スタッフとして、宿泊・飲食の創業支援や大学と連携した古民家改修プロジェクトなどの農泊推進の活動に携わっています。



## 本場のきりたんぽづくりや農作業体験を主とした、農家民宿と教育旅行の誘致

東京・渋谷の忠犬八公像で有名な秋田犬のハチの生まれ故郷でもある秋田県大館市は、きりたんぽ鍋、比内地鶏、秋田杉の曲げわっぱづくりなどの多くの観光資源を有する町です。

これら多くの素材を生かし、交流人口を増加させることを目的に大館市まるごと体験推進協議会を通して農家民宿の受け入れサポートや教育旅行の誘致に向けたPR活動に取り組んでおり、市の地域おこし協力隊員にも協議会の業務に従事していただいています。

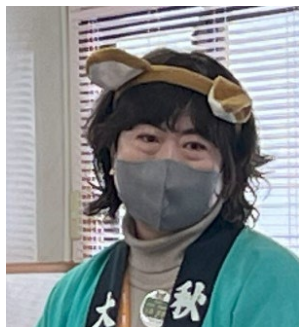


秋田県大館市 地域おこし協力隊 工藤 里美さん(活動期間:令和5年度～)

両親の故郷である秋田県大館市を元気あふれる場所にしたいという思いから、地域おこし協力隊になることを希望して東京から移住を決めました。

現在は、協力隊員として、農家民宿オーナーと外国人観光客間の予約受付、修学旅行誘致活動、修学旅行体験学習現場でのサポートや、大館市で開催されるイベントの運営などを行っています。大館市役所観光課の方々からご指導を頂きながら大館市を勉強中です。

長年にわたり旅行業に携わっておりましたので、観光を通して国内・海外へ多くの人々に大館市の魅力を広げる活動で交流人口増加へ繋げたいと思います。





## 遊び×地方創生、インバウンドグリーンツーリズムで地域を元気に

秋田県仙北市は、東北有数の観光地であり、国、県が実施するインバウンド政策への対応や地域住民が気付かない観光資源の活用を進めるため、地域おこし協力隊員に地域協議会の運営協力及びインバウンドグリーンツーリズムの推進を目的として活動してもらっています。

一般社団法人仙北市農山村体験推進協議会を通して市内農泊関係者との関係構築を行い、オンラインでも行われている英語圏との旅行商談への対応やインバウンド対応を想定した企画を実施し、退任後も市内で活躍の場を広げています。



### 秋田県仙北市 元地域おこし協力隊 東風平 詩人さん

(活動期間: 令和元年度～令和5年度)

私は大学進学を機に沖縄から秋田に移り住み、四季豊かな自然とそれに歩調を合わせる人の暮らし方に惹かれ仙北市の地域おこし協力隊に応募しました。任期の始めはコロナ前ということもあり、上り調子だったインバウンド観光とグリーンツーリズムの振興に務めました。間もなくコロナ禍で一時停止せざるを得ませんでした。

その間に浮き彫りになったのが、グリーンツーリズムを牽引している農家民宿の経営者の高齢化、次の観光産業の担い手不足という課題でした。コロナ禍前のインバウンド客の推移を見ても、日本の地方部は観光のポテンシャルが高いと確信し、任期中に築140年の古民家宿を事業承継し、退任後は法人設立をして宿泊事業とアクティビティ事業に従事しています。今後も秋田の魅力を「遊び」を通じて世界に届けたいです！



### 秋田県仙北市 地域おこし協力隊 佐藤 成真さん(活動期間: 令和4年度～)

漠然と「田舎暮らしがしたい」と思い、地域情報を集めていたところ、偶然にも仙北市の地域おこし協力隊の募集を知り、直感で応募しました。主な業務内容は、仙北市内の農家民宿に宿泊を希望しているインバウンド客への持ち前の英語力を活かした対応や、事務サポートです。

協力隊になる前は動画編集の仕事をしており、退任後も地域に根付いて映像制作業を続けようと思っていたのですが、農家民宿の事業者さんたちと深く関わっているうちに自分も農家民宿を始めたくなりました。そのため、退任後は映像の制作と民宿経営の二刀流で生計を立てようと思っています。



## ダリア染め文化を広める活動でまちおこし

福島県塙町には、花のテーマパーク「湯遊ランドはなわダリア園」という観光名所があります。特に8月から10月頃まで、町内各地でダリアが花を咲かせ訪れる観光客を歓迎するなど「まちの花ダリア」が重要な観光資源となっています。塙町のシンボルであるダリアの特産品として「ダリア染め」の制作・販売に塙町観光協会に所属する地域おこし協力隊が取り組んでいます。

塙町の実施するモニターツアーでは都心部からの参加者に「ダリア染め体験教室」を開催したり、町内外のイベントに出展するなどし、塙町のダリア文化を広め、その魅力を発信しています。



福島県塙町 地域おこし協力隊 土井 眞穂梨さん(活動期間:令和3年度~)

「ものづくり」に関心があったので、同年からダリア染め製作の活動を開始しました。ダリア染めの魅力は、染料の品種のほか、時期や季節・気候によって、製品が「完全1点モノ」として出来上がることです。「10年に1度！」の製品が毎回出来上がるみたいな感じ(笑)で楽しいです。材料は、本来廃棄物となるはずだったダリアを使用しています。「ダリアのまち」塙町ならではのですね。

最近では、塙町の陣野菓子店さんの依頼で「のれん」製作に取り組んでいます。地域の皆さんに頼ってもらえたことがすごく嬉しいです。



## 農泊や民泊で地域の活性化をめざして協力隊員が活躍

茨城県神栖市では、地域おこし協力隊員に神栖農泊協議会での業務に従事していただいています。神栖農泊協議会では、地元のお寺長照寺住職の宿坊宿泊に農業体験を組み合わせたり、農業とスポーツ(サイクリング、サッカー、野球など)を取り入れた宿泊プランの造成・販売を進めています。

その中で、地域おこし協力隊員は、「農泊Xサイクリングプラン」を考え、神栖市観光PR動画の製作などを行っています。農業体験はもちろん、じゃがいもの畑で行う新しいイベント“砂山作り大会”や地元の農産加工品をキッチンカーで販売するなど、神栖市波崎地域における農泊ビジネスの確立に取り組んでいます。

他にも、近郊の地域おこし協力隊や地域活動に熱心で興味がある人に集まって頂き、“神栖市における観光研修会”を年に2回開催しています。



茨城県神栖市 地域おこし協力隊 竹中 郁人さん(活動期間:令和4年度~)

1996年鳥取県鳥取市生まれ。移住前は、大阪府門真市でパーソナルサッカースクールのコーチを務めながら、動画撮影・編集などに取り組んでいました。

趣味は旅・料理・レザークラフト。特技は動画撮影・編集、サッカーで、観光やスポーツに関わる仕事がしたいという思いがありました。

また、お祭りなどのイベントやもちろん農業などの神栖市の市民には見えない大きなポテンシャルに関心があり応募を決めました。

現在では、SNSの運用や地域のヒト・モノ・コトの取材活動など情報発信しております。

これからも、神栖市での起業または就職に向けた自主活動を目指して観光振興に関わる地域活動に取り組んでいきます。移住者から見た神栖市の魅力を日々発信していきます。





## 空き家と耕作放棄地対策で観光・移住定住促進！

北総里山文化推進協議会は、発酵の里こうざきの古民家サロンHOUSEを中心に、農業体験、文化体験、発酵体験、瞑想体験など心と身体の安らぎを求めて農泊の取組を推進しています。特に地域の古民家、空き家や耕作放棄地の活用を模索しながら北総エリアで活動を展開しています。地域おこし協力隊は香取市をベースに活動しており、椿HOUSEや塙HOUSEに宿泊したお客様に着物体験や茶道体験のサポートをしながら佐原の街並みを案内したり、移住希望者に空き家の紹介をしたりと地域の方々と連携しながら地元の情報発信をおこなっています。



千葉県香取市 地域おこし協力隊 顔冬子さん(中国吉林省出身・活動期間:令和4年度~)

国際医療通訳(中国語)で活動していましたが、コロナ禍により東京の仕事がなくなり、神崎町の古民家サロン椿HOUSEでのボランティア活動がきっかけで、この北総エリアが気に入りました。香取市の地域おこし協力隊に採用され、最初は移住促進担当として移住希望者へ農業体験や文化体験をご紹介して小江戸佐原を中心に北総エリアのPRをしていました。特に椿HOUSEさんは農泊施設としても魅力がありさまざまなご縁をいただきました。

現在は観光課と連携してインバウンドも含めて香取市や北総エリアの情報発信をしています。今後は空き家や耕作放棄地などの活用を観光にも取り入れて、多くの方々に来訪いただき、究極的には移住定住に繋がるように活動しています。地方において人口が増えることはさまざまなメリットがあるので、企業誘致も含めて人口増加施策を常に意識して活動して参ります。



## 狩猟体験からジビエ肉販売まで協力隊員も一緒に盛り上げる！

静岡県松崎町の農泊地域協議会である「松崎町・害獣×外住協議会」では、地域で問題となっている獣害を狩猟体験やジビエ肉販売につなげて地域の観光資源として活かすことで地域活性化を図っています。この中で、松崎町の地域おこし協力隊員が、狩猟体験ツアーのガイドや捕獲した鹿猪の解体、精肉販売などを担っており、山奥の小杉原地区における農泊ビジネスの確立に取り組んでいます。



静岡県松崎町 地域おこし協力隊 石川 たごさくさん(活動期間:令和4年度~)

狩猟に興味があり松崎町で鹿・猪による被害が増加していることを知り、害獣問題の解決とジビエ肉の流通で地域経済の発展に繋がるのではないかと思い応募しました。

現在は、農泊に取り組む「松崎町・害獣×外住協議会」と連携し狩猟体験やジビエ肉 BBQのツアー、わなオーナー制度のコンテンツを確立し、都内の業務提携した企業とイベントやSNSでの発信を強化し認知度を高めるとともにジビエ肉の商品開発と販路拡大を目指し活動しています。





## 地域の未発掘の資源を観光化する仕掛けづくり

新潟県長岡市の中山間地域にある山古志では、山古志ならではの観光資源の発掘や価値を高めるために、山古志の観光を担う山古志農泊推進協議会と長岡市の地域おこし協力隊が一体となり取り組んでいます。

人口750人まで減少、高齢化率56%以上の限界集落という課題をかかえながら、関係人口を取り入れるための地域の魅力を発信する仕掛けづくりや地域の未発掘の資源を利用した体験コンテンツ造成、観光保全のためのボランティアツアーなど、様々な活動に取り組んでいます。



### 新潟県長岡市山古志 地域おこし協力隊 中澤 泉さん(活動期間:令和3年度~)

海外マレーシアで会社員生活を長く続けておりましたが、本帰国をきっかけに地方創生に関わる仕事に興味を持ち、地域の観光活性化を目的とした地域おこし協力隊に応募しました。実際、山古志に移住し、地域の方々と多くの関わりを持つことで、今までにはない多くの気づきを得ています。

現在は、インバウンドを含めた観光客を誘致するために、山古志農泊推進協議会のスタッフとして、地域の伝統文化の発信、観光資源の発掘に従事しております。より多くの山古志ファンを創り上げるために、よそ者目線での地域の宝の発見や山に暮らす人々の人間力など、山古志ならではの地域の魅力を発信し、地域と地域外を結び役割を担ってまいります。



## 協力隊で培った企画力で旅行会社を設立し農泊を推進

新潟県十日市町では集落活動の担い手不足解消の為、地域おこし協力隊を採用しています。市役所などの行政では手の届きにくい細やかな集落支援を仕事としており、集落によって多岐にわたります。

集落の中での祭りなどのイベントサポートや農林関係の補助金申請書類作成、空き家の調査と利活用等、その地域に住むからこそ見える課題に対して集落住民と協働して解決に臨みます。最近では里山の資源(棚田や古道、古民家等)を用いた関係人口増加に向けての取組が強く期待されています。



### 新潟県十日市町 元地域おこし協力隊 井比 晃さん

(活動期間:平成27年度~平成29年度)

豪雪地帯の新潟県十日市町の方々が力強く生きている姿に憧れて移住をしました。イベントでの野菜販売や婚活事業、林業から始める空き家のリノベーション事業、観光PR等の活動を行ってきました。

活動の中で高齢化が進む集落の持続性に危機感を持ち、地域の暮らしにフォーカスしたコンテンツを開発・販売し、地域住民が経済的に恩恵を受けられる取組として旅行会社を設立。その事業の中で水沢棚田協議会(Mizusawa Rice Terrace Conference)の事務局長としても就任。地域住民と協働しながら体験コンテンツ等を造成し、地域の古民家を宿泊施設としてリノベーションしながら 宿泊客と地域住民が交流できる拠点施設を整備し管理・運営をしています。





## 氷見をもっと知ってもらうために深堀

富山県氷見市では、地域観光プランナーや環境にやさしい農業支援など地域課題の解決に取り組みつつ、起業実践を目指す人材を確保するため地域おこし協力隊を受け入れています。

氷見市宿泊体験推進協議会では、漁業や水産加工業などを中心に、山間部への訪問を含んだ体験・滞在型観光メニューの開発及びSNS等を活用した情報発信に取り組んでいます。氷見市の観光は海側がメインになってしまいがちですが、山間部や歴史などにもスポットをあて、氷見に訪れる観光客が増えるように小さなトピックでも拾い上げ、観光素材の一部となるようアウトプットに尽力しています。



### 富山県氷見市 地域おこし協力隊 田中 紀行(活動期間:令和4年度~)

自分にとっての豊かさとは何かを考え始め、神奈川に住み東京で働く生活から全く縁もゆかりもない富山県氷見市に移住することを決意しました。祖母の家は山形県にあり、小さい頃からよく遊びに行っていたのですが、大人になるにつれ過疎や高齢化など地方特有の問題を意識し始め、地方創生への興味が沸き氷見市の地域おこし協力隊に応募しました。

現在は氷見市の観光を推進するべく、地域観光プランナーとして地域住民との交流を図りながら様々な角度からの情報発信や観光案内に関する情報媒体の作成、マーケティングや広報活動に取り組んでいます。



## 地域の資源を活用したまちづくり

福井県若狭町の地域おこし協力隊は、地域の産業や観光の新たな担い手として、農家、観光事業者、まちづくり団体等で活躍しています。

農泊に取り組む「伝統漁法による三方湖の活性化推進協議会」は、漁業資源を始めとする地場産物を使った料理やSDGsを意識した環境保全型の体験プログラムの提供などを行っており、阪野さんは隊員卒業後に農泊協議会の中核法人である「一般社団法人Switchi Switchi」の代表理事として活動しています。



### 福井県若狭町 元地域おこし協力隊 阪野 真人(活動期間:平成28年度~平成30年度)

愛知県出身で高校卒業後、野外活動等を学ぶ専門学校を経て10年間北海道でガイドをしてきましたが、今後の子育てなどを考える中で妻の実家がある若狭町へ移住をしました。

若狭町では人と自然の良い関係を創り続けることが、結果的に地域での暮らしの豊かさに繋がると考え活動をしています。三方五湖では、400年以上続く伝統的な漁法でウナギ、コイ、フナなどが水揚げされており、水産資源をとり過ぎない漁法として改めて注目されています。

一方で、漁業者の減少や高齢化によって伝統漁法の存続が不安視されており、本協議会では、伝統漁法の現場を見る体験ツアーや、コイやフナの消費拡大を目的とした商品開発やイベントを実施しています。地方の人口減少が進む中で里山、集落や地域、産業の維持が難しくなっており、地域に暮らす私たちが主体的に地域の未来を選んでいくことができればと思います。





## 地域丸ごと宿やエコツアーの仕組みを活用した農泊推進

岐阜県山口市では、美しい川や山などの豊かな自然環境を活用した観光推進と地域産業の活性化を目指し、地域おこし協力隊を採用しています。採用された隊員は、既存の地域産業に新たな価値づけをしてさまざまなプロジェクトに従事してきました。

現在、山口市は、農泊事業に力を入れており、令和5年度からNPO法人山県楽しいプロジェクトを中心とした山口市農泊推進協議会が発足しました。同協議会では農泊モニターツアーやPRイベント、食の商品開発などを行っており、各地域おこし協力隊員には、宿泊、ツアーガイドの面で協議会の取組との連携を期待しています。



### 岐阜県山口市 地域おこし協力隊 河合 祐樹さん(活動期間:令和2年度~)

衰退の一途を辿る山口市北部の北山地区を、文化維持・産業振興・自然保全の面で持続可能なエリアにするべく、地域おこし協力隊に応募しました。北山地区を地域丸ごと一つのホテルと仮想し(ヒトイキ村)、地区に散在する宿泊、食、体験、観光、特産物をつなげ、一元的に魅力を発信・提供していく仕組みを整備しています。

空き古民家を活用したゲストハウスやコワーキングスペースを整え、そこを拠点に「源流の水・めぐる物語」というテーマのもと、間伐放置材を活用したサウナ、ネイチャーガイド、ウェルネスツアーなどの体験ツアーを開発しています。山口市農泊推進協議会のツアー造成にも、アドバイザーとして参画しています。



## 林業の現状に寄り添った森林空間の活用と観光資源の発掘

岐阜県八百津町では、定住・定着の担い手となる人材の確保と当町の魅力を別の視点から発見するため、平成27年度から地域おこし協力隊を採用しています。

採用された隊員は、地域資源や特産品の掘り起こし及び販売促進に関する活動、地産地消の推進に関する活動、空き家の有効活用・都市住民の移住・定住及び交流事業・農業・林業及び観光の振興に関する活動、里山地域のまちづくり支援・廃校となった校舎の活用と企画運営・町の行事及び地域行事への支援、その他地域力の維持・強化に資する活動に取り組んでいます。



### 岐阜県八百津町 元地域おこし協力隊 武藤 貴子さん

(活動期間:平成27年度~平成30年度)

平成27年11月より八百津の地域おこし協力隊として3年間の活動を経て、その後は八百津町に定住。八百津町の山村エリア(八百津町久田見・福地・潮南地区)を中心に、山村地域に眠っている特色ある農林水産物などの地域資源の磨き上げや、地域の潜在能力を引き出し、地域の活性化を目指すことを目的とし、80%山のまちを元気にする協議会を立ち上げ、活動を続けています。

林業、農業体験などの体験型ワークショップの開催など、森林空間を活用した新産業創出への取組や、「小さな家」プロジェクトとして、木を活用した新たな商品開発等の森林整備につなげていく活動を、地元の林業家、建築の専門家、名古屋造形大学、岐阜大学などと協働で実践中です。







## 太古の昔から人々が住む島を受け継ぐために

愛知県西尾市の離島佐久島では、令和3年度から地域おこし協力隊を採用しています。

採用された隊員は、行政職員として市内の離島の佐久島に居住し、環境整備や島民のニーズに答え、島のためになることを日々考え活動しています。

また、佐久島で栽培するサツマイモを「サクのいも」としてブランド化し、島の土産物として定着させようと取り組んでいます。その活動の担い手として、耕作放棄地を開墾して栽培を広めることにも取り組んでいます。



### 愛知県西尾市佐久島 地域おこし協力隊 池部 彰さん(活動期間:令和3年度~)

ワーキングホリデーを経験し、海外で農業経験もあったことから、佐久島でのサツマイモの栽培も違和感なく取り組むことができています。島に住みはじめてからは、いろいろな職業を経験し、特に、現在は、漁業関係の仕事として、毎年多くの中学生が体験する、西尾南部ベイエリア協議会の体験メニューの1つである「漁船体験」もお手伝いしています。

春には、アサリ漁が始まります。島では石の間を探って貝を掘ります。獲れたアサリは、身がプリプリでとても美味しいです。このような伝統漁を受け継いでいけたらと考えています。



## 渚泊でブルーツーリズムの推進

三重県紀北町では、移住定住、観光誘客を目的に平成28年度から地域おこし協力隊を採用しています。採用された隊員は、地域の魅力を発掘し、SNSやYouTube等を活用して紀北町の魅力を発信するほか、イベントへの参加も積極的に行っています。

紀北町海山地区渚泊推進協議会では、令和4年度から農泊の交付金を活用し、当該地域の強みである海、山、川のすべての体験を提供できる体制を構築し、地域が一丸となって観光を地域の産業として、確立することを目標に渚泊推進事業を実施しています。地域おこし協力隊には、外からの眼で地域の新たな良さを発見いただくこと、元キャビンアテンダントとしての語学力を活かし、インバウンド対応も含め、将来は定住して協議会の事務局として、またコーディネーターとしての活躍を期待しています。



### 三重県紀北町 地域おこし協力隊 井上 幸子さん(活動期間:令和5年度~)

紀北町の海、山、川が大好きです。

三重県や海外等で仕事をしていましたが、「やっぱり三重に戻りたい!」と強く思い、以前、仕事でご縁のあった紀北町の地域おこし協力隊に応募しました。

一次産業者が渚泊の観光事業へ乗り出す過程で、強いコンテンツはありながらも、時間や人材が限られているため、手が回らない部分が多々あると思います。

キャビンアテンダント等のサービス業での経験を活かし、お客様対応やニーズの分析、情報発信などソフト面で町の方々のお役に立てればと考えています。海の魅力を作るブルーツーリズムがミッションなので、紀北町の歴史や漁村で行うツアー等による「渚泊×サービス」で、紀北町のファンを増やしていきたいです。





## 茶業や観光等を通じた地域活性化

京都府和束町では、800年という茶業の歴史が生み出す茶畑の美しい景観が将来も保全・活用されるよう、宇治茶及び和束茶のブランド力を高め、茶業のみならず地域資源を活かした観光地域づくりを推進し地域の魅力を高めていく活動に取り組んでいます。

和束町では、地域おこし協力隊を消費者・都市住民・訪日外国人への有用情報の積極的発信、既存の観光・交流活動の強化、地域資源を活かしたビジネスでの接遇活動を通じて地域活性化活動に従事または起業できる人材として育成していくことを目標としており、隊員には和束町農泊地域協議会において活動していただきました。



京都府和束町 元地域おこし協力 鶴澤 由明さん(活動期間:平成31年度)

和束町と出会ったきっかけは、「土の文化を進めんもの」と想いを抱き、農業団体に勤務していた頃、世界的な茶業の特異点、宇治茶の主産地「和束町」と仕事で関わったことでした。同団体を退職後、町役場サイドではなく地域協議会の地域活性化人材として単年度でしたが和束茶の生産・販売等を学びながら、都市農村交流事業や茶業に直接関わる機会を得ることができ、現在は、和束町内の茶農家に就業しております。

今後は、和束茶の知名度の向上や国内外の交流活動の推進に努め、日本文化の集大成の茶文化及び歴史・日本の食・伝統行事等について温故知新を図りながら、和束町の魅力を少しでも高めることに貢献していきたいと考えています。



## 農泊事業で地域おこし

京都府伊根町では、「舟屋」と呼ばれる住民所有の舟小屋がランドマークであるため、住民に配慮した来訪者の受け入れを進める必要があります。町の規模や実情に沿った受け入れ体制の確保や仕組みを構築するため、平成30年に観光事業者や漁業関係者等と伊根浦地区農泊推進協議会を設立し、地域おこし協力隊員と一緒に事業を進めて参りました。

隊員は、協議会の調整役として、住民と実施したワークショップや、漁業体験の造成及びモニターツアーの実施、地産地消に関するセミナーの開催、食の魅力を発信するための動画制作等に携わっていただきました。任期満了後も伊根町に在住し、体験コンテンツの運営事業を立ち上げて活躍されています。



京都府伊根町 元地域おこし協力隊 増田 一樹さん(活動期間:平成30年度~令和2年度)

平成30年7月に家族で伊根町に移住しました。もともと田舎暮らしやスローライフに魅力を感じていた訳ではありません。それではなぜ伊根町に惹かれたのか。それは圧倒的なフロンティア感を感じたからです。この町は全国に誇るべき資源を持ちつつ、伸びしろに溢れており、自分でも活躍できる場があるのではないかと考えました。

協力隊の3年間で起業するためキッチンカーの出店や電動スポーツ自転車を使ったツアー造成など徐々に活動の幅を広げていきました。退任後は引き続き「伊根浦地区農泊推進地区協議会」と連携しながら、自身の経営するサイクリングツアーや、周辺の事業者・自治体と連携する企画で忙しくしています。観るだけの観光地が長続きする事はなく、「つまらない観光地」として寂れていった地域の何と多い事でしょう。持続可能な観光のため、微力を尽くす所存です。





## 山暮らし体験・観光交流拠点施設となる古民家を整備

奈良県十津川村では、紀伊半島中央部の狭隘な山間地域で長く続いてきた十津川村の山暮らしを体験できるようなプログラムの造成や、新たな観光交流体験創出を目的に、地域おこし協力隊を採用しています。

採用された地域おこし協力隊は、「十津川村インバウンド受入協議会」のメンバーとして活動し、令和5年度は、山暮らし体験の滞在拠点となる古民家のリノベーションを実施。地域おこし協力隊が運営・管理を担っています。



奈良県十津川村 地域おこし協力隊 西村 晃代さん(活動期間:令和4年度~)

インバウンド観光の仕事をしていた前職の繋がりで十津川村と出会い、源泉かけ流し温泉、世界遺産熊野古道・小辺路、修験道の聖地・玉置神社、瀨峡など、まさに「最後の秘境」にふさわしく、魅力あふれる十津川村に魅かれて、地域おこし協力隊となりました。

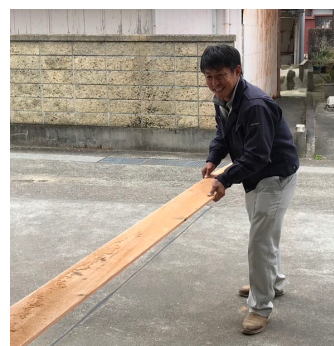
1年目は、インバウンド観光受入促進、お土産品開発等を中心に活動しつつ、古民家整備に取り組みました。2年目となった今年度以降は、旅行業取得にも取り組み、「稼げる観光」の実践を目指しているところです。



## 元地域おこし協力隊が起業し古民家を活用した宿泊や農村レストランを展開

和歌山県串本町は、人口減少や少子高齢が進む中で地域外の人材を積極的に誘致し地域活性化に必要な施策の推進に資するとともに、定住及び定着を促進するために、地域おこし協力隊の受け入れを行っています。

隊員には、地域では気づかない魅力を更に引き出すことや、農泊の地域協議会や宿泊施設の立ち上げ・運営に関わっていただき、串本町の観光の盛り上げに貢献してもらいました。



和歌山県串本町 元地域おこし協力隊 博多 敏希さん

(活動期間:平成26年度~令和元年度)

串本町 地域おこし協力隊では、観光振興をミッションにしていました。地元にいると見落としてしまう魅力を再発見し情報発信から始めました。その後は、国際交流の隊員とイベント実施や、地元特産のさつまいもを栽培し、古民家活用などに取り組んできました。最終的には、古民家を活用したまちづくりとして、農泊に取り組む串本町古民家活用協議会やNIPPONIA 串本の立ち上げ運営に携わることになりました。

串本町に寄贈された築140年を超える古民家の活用から始まり、現在では周辺の古民家6棟の改修が実施され、宿泊施設、カフェ、レストランとして運営をしています。人が少なくなる場所に魅力を作り、まずは一度串本町に来てもらうということが、少しずつ規模が大きくなり、まちづくりの一助になれたのでは無いかと考えています。





## 協力隊として農泊事業に取り組んだ3年間

山口県萩市では「萩をおこす」取組として、地域外からの新たな視点での地域振興や魅力づくりに向け、平成27年度から地域おこし協力隊を受け入れています。「萩市ふるさとツーリズム推進協議会」は平成25年度から教育旅行の受け入れを行っており、隊員には協力隊の任期期間中のミッションとして当協議会の収益化を図ることでした。

隊員は、平成29年度から農泊の交付金を活用して教育旅行からインバウンドや個人旅行の受け入れに舵を切り、協議会の事務局の運営を担っていただいています。令和5年度は約390名のインバウンドの受入を行いました。



### 山口県萩市 元地域おこし協力隊 宮崎 隆秀さん

(活動期間:平成27年度～平成30年度)

着任前は、旅行業界で働いており、お客様を旅行先へ送客していましたが、旅行先でのお客様の動向が気になるようになり、観光地でお客様をお迎えする立場となる観光業の仕事に興味を持つようになったのがきっかけで、タイミング良く萩市が協力隊の募集していたため応募しました。

現在は、協議会の事務局を民間に移管して継続して事務局運営を行いながら、日本酒サイクリングツアーや城下町ウォーキングツアーなど、新たな体験コンテンツの提供を行っている他、旅行業の登録を行い、関係人口創出ツアーや移住ツアー等にも携わっています。

今後の目標として、萩市に移住を希望する方々に対し、ホームステイ受入等による所得創出や直接雇用できるよう事業を広げていきたいと考えております。



## 森を循環の中心に据えたコミュニティ作り

香川県高松市塩江町は県唯一の国民温泉保養地、観光地として戦前から長い伝統を持つ地域ですが、近年は産業の衰退と人口減少に直面している四国山地の北側の中山間地域です。公共交通があまり整備されていないことや、泉質は良いものの冷泉であることから燃料代の負荷が大きいことを理由に観光産業も衰退し、時代にあわせた町の産業の転換が求められています。そんな中、高松市はフリーミッション型の地域おこし協力隊を採用し、広葉樹中心で四季の移り変わりが美しい森の風景を利用したコンテンツ作りや、空き家を活用した活性化を行っています。2026年には、国の支援を受けて新しい道の駅が完成する予定で、そこにむけて組織改革や産業創出など抜本的なまちづくりを進めています。



### 香川県高松市 元塩江町地域おこし協力隊 村山 淳さん

(活動期間:平成29年度～令和2年度)

福島県出身の私は東日本大震災と続く福島第一原子力発電所の事故のあと、水や食糧、エネルギーなどの基幹インフラが自立したまちづくりにチャレンジしようと塩江町にやってきました。任期中は、塩江町のことを知るために土地を歩きながら、伝統野菜の栽培支援や自伐型林業の事業者さんのお手伝いなどをしてきました。

任期後は一般社団法人トピカを立ち上げました。農泊推進事業の一環で、空き家を改修したゲストハウス作りや、高齢化と低価格化が理由で新規参入が難しい産直野菜のブランド化事業や、木質バイオマスによる熱供給事業を目指した検討と林業事業者・宿泊施設間の関係作りなどを行っています。法人としても、森の草木をつかったエッセンシャルオイル事業など、林業の新しい形を模索しています。





## 女性目線で農業者支援をテーマに活動しました

福岡県八女市では、平成25年度から地域おこし協力隊を任用し、移住・定住とあわせて地域活性化の取組に従事して貰っています。

福岡市 からUターンで戻られ地域おこし協力隊に着任されたのと同時期に農泊に取り組む母の膳推進協議会が設立されました。農泊交付金推進事業に取り組み始めたタイミングでしたので、外部協力者として農泊の取組支援に関わって貰い、収穫体験と料理づくりワークショップや福岡市内で開催した料理教室とマルシェイベントなどを企画して当日の運営をサポート頂きました。

現在も食品加工などの面で農作物の提供や、協議会と一緒に勉強会に参加するなど様々な面で連携しています。



**八女市 元地域おこし協力隊 田中 未来さん**(活動期間:令和元年度~令和3年度)

平成30年にUターンし、八女市の地域おこし協力隊になりました。女性農業者への支援が主な活動ミッションでもあり、地元の農家さんと共に活動しました。

「作ること」のプロの農家さんのお力を借りてイベント企画やマルシェでの販売等を行い、作り手とほしい人の繋ぎになることを目標に活動しました。

現在は家業の柑橘栽培の手伝いの傍ら、農泊の取組においても、郷土料理作りなどの体験コンテンツや食材等の提供を行っています。今度も地域の食や伝統を学びながら、地域を訪れる皆様に繋ぐ・伝える活動をしていきたいと思っています。



## 海女の発祥の地で、海女さん見習いとして地域おこし！

福岡県宗像市鐘崎集落は“海女”の発祥地と呼ばれています。

現役の海女さんが2名となっている状況が続くなか、平成29年に地域おこし協力隊として海女さんを全国公募し、2名の方を採用しました。農泊地域協議会の中核法人である「宗像鯨の会」では、現役の海女さんを構成メンバーとして、市役所所属の地域おこし協力隊の海女さん2名の方とも連携し、「海藻おしば体験」のインストラクター取得、吉岐の視察研修など実施しています。



**福岡県宗像市 元地域おこし協力隊 本田 藍さん・魚住 ゆかりさん**

(活動期間:平成30年度~令和3年度)

元理科の高校教師だった本田さんと、自動車メーカー工場勤務でカフェ店員の経験もある魚住さんは平成30年から海女見習いとして鐘崎集落で活動を行ってきました。任期中の主な活動は、海女としてワカメ、ウニ、アワビ、ナマコなどの採集技術の習得、地元レシピの収集活動や、高齢海女さんや関係者からの海女漁の知識や記憶などをインタビューし閲覧可能なデータを作成、「あまちゃん食堂」の運営、オンライン料理教室の開催、海女漁をPRするために水族館でのショーの実演、関西、関東含めイベントの開催、宗像観光ボランティアのお手伝い、有害生物の駆除調査や、環境団体と連携し、海の環境保全活動を啓発するための活動、地元小学校への環境学習などの実施、海藻おしば体験や稚魚捕獲観察会、ウミボタル観察会などの自然学習系ワークショップなどの開催を行いました。





## 自然に囲まれた島暮らし体験で世界と繋がる農泊

熊本県上天草市は天草諸島の玄関口で多くの島が集まる市です。市全体として自然や体験を売りにした観光や農業漁業などの事業に取り組む一方で、人口減少や高齢化の進行により、活動を担う人材が不足しています。このため市では、地域住民と一緒にになって活気あふれる地域づくりを担っていく人材として地域おこし協力隊を受け入れています。

維和島では、令和元年から地域おこし協力隊により、農泊に取り組む維和島振興協議会で地域資源を活用した農漁業体験や民泊・飲食スペースの整備など、滞在や交流の場を作ることで島外からの関係人口の創出を行っています。



### 熊本県上天草市維和島 元地域おこし協力隊 星野 真理さん

(活動期間:令和元年度～令和5年度)

埼玉県出身で東京の大学を卒業し企業で働くことにやりがいを感じていましたが、休暇で母の故郷である維和島を訪れる頻度が年々増えていき、そのたびに地域の方たちとの交流や自然に癒され心地のよさを感じるようになりました。

自分は魅力を感じて足しげく通っているのに、地元の人たちが口をそろえて「ここには何もないから誰も来ない」と高齢化や人口減少を嘆いていることに気づきました。自分が持つ外からの目線でこの地域の魅力を再発見し、新たな交流を生み出すために、空き家を活用した宿泊施設や交流の場づくりなどに取り組んでいます。





## 地域を知り人とつながること、地域の資源と暮らしを繋いでいく

熊本県あさぎり町は、町外から新しいプロジェクトにチャレンジしたいという熱意を持つ人を地域おこし協力隊として任命しています。町では地域商社「あさぎり商社」に業務委託して、地域おこし協力隊をあさぎり商社の社員として採用を行いフレキシブルな活動していただいています。具体的には、あさぎり商社の業務である地域づくり協同組合の事務局、ふるさと納税の梱包作業などを行うとともに、地域の行事やイベントにも参加していただき、球磨地域や熊本市にも出向きフットワーク軽く学びやつながりをつくっています。また、あさぎり商社での業務とは別に、町内で活動する農泊の地域協議会「球磨川ふるさと食・農協議会」の活動にも関わっていただいています。



### 熊本県あさぎり町 地域おこし協力隊 石川 智一さん(活動期間:令和4年度~)

協力隊として自分は何者なのか、何をしているのかを知ってもらう事が大事と考え、地域の中に入って行事やイベントなどに参加する中、農村民泊で活動されている方々と関わり「食・農・命」をテーマに様々な活動をされていることに「これだ!」と思い、学びながら参加をしています。

農泊イベントで色々な方と交流し繋がったり、協力隊の交流会の場として協力してもらったりしています。

2年目に入り、地域のツアーやワーキングホリデーの宿泊場所として球磨川ふるさと食・農協議会と連携しながら、農泊を利用し体験してもらう事で「交流・関係人口」につながる活動やコミュニティの拠点づくりを目標にしています。



### 熊本県あさぎり町 地域おこし協力隊 森田 孝政さん(活動期間:令和4年度~)

義理の兄弟で地域おこし協力隊としてあさぎり町で活動しています。(あさぎり兄弟)地域商社あさぎり商社に所属して、主な業務は、農業を主体とした複業組織「あさぎり地域づくり協同組合」の事務局を担当しています。

あさぎり町がある人吉球磨地域は、農泊をされている方が多く、私たち地域おこし協力隊もとてもお世話になっています。人吉球磨地域の協力隊で地元の食材を、農泊のお母さんたちと一緒に調理して、特産品の球磨焼酎で乾杯する、地域をまるごと味わう交流会も開催させていただきました。なかなかクローズアップされない地域の暮らしを、身をもって体験してこの地域の素晴らしさを、もっといろんな人に知ってもらうために、情報発信やふるさとワーキングホリデーなどの事業を通じて関係人口を増やしていきたいと考えています。

① 予算措置

○議会の議決 ※対象経費に留意

② 実施要綱等の作成

○地域の受入れニーズの把握  
○実施要綱、設置要綱の作成  
○募集要項(業務概要、待遇等を記載)の作成



③ 協力隊員の募集

○団体のサイトや広報誌、一般社団法人  
移住・交流推進機構(JOIN)のサイト(☆)等で公募

☆地域おこし協力隊オフィシャルサイト(移住・交流推進機構(JOIN)ホームページ)  
<http://www.iju-join.jp/chiikiokoshi/>

○移住・交流情報ガーデンの活用

[https://www.iju-join.jp/join/iju\\_garden/index.html](https://www.iju-join.jp/join/iju_garden/index.html)

○都市部での説明会の実施



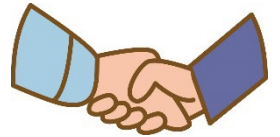
④ 選考・面接

○候補者の要望聞き取り ※地域要件に留意

⑤ 協力隊員の決定

⑥ 事前説明・準備

○隊員への事業の詳細の説明  
○地域での役割、心構えなどを学ぶ研修の実施  
○現地説明会の実施(住民との顔合わせ)  
○隊員の年間活動計画の策定  
○隊員の生活環境のサポート



⑦ 委嘱手続き  
～活動期間中

○隊員の住民票を異動、委嘱状交付 ⇒ **活動開始!**  
○サポート体制の構築(研修の実施、活動状況の把握等)  
○隊員の活動状況をホームページ、広報誌等でPR  
○地域内外との交流の機会の確保  
○任期終了後の隊員の定住・定着に向けた支援  
○特別交付税の基礎数値報告





## お問い合わせ先

### ◇ 本パンフレット 及び「農泊」の推進について

農林水産省 農村政策部 都市農村交流課 農泊推進室 TEL:03-3502-0030

[https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/nouhakuishin/nouhaku\\_top.html](https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/nouhakuishin/nouhaku_top.html)



### ◇ 地域おこし協力隊制度について

総務省 地域力創造グループ 地域自立応援課 TEL:03-5253-5394

[https://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/jichi\\_gyousei/c-gyousei/02gyousei/02gyousei08\\_03000066.html](https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/02gyousei/02gyousei08_03000066.html)

